

## IV. 試験結果の活用促進

### 1 認定証

#### A. 2022年4月以降に検定試験に合格された方

2022年4月以降に各委員会が主催する検定試験に合格した場合、受験者に対し「デジタル認定証（オープンバッジ）」を発行（無料）。（一部の試験を除く）

なお、受験者に対しては「デジタル認定証（オープンバッジ）」の他、デジタル認定証明書PDF及び、試験結果帳票PDFを発行しており、試験結果帳票PDFには「認定基準」「合格基準」「分野別得点率（または正答率）」「合否結果」「出題範囲」等を記載している。「デジタル認定証（オープンバッジ）」、「デジタル認定証明書PDF」の見本は、以下のとおり

#### (1) 「デジタル認定証（オープンバッジ）」見本

※2022年4月以降にご受験いただいた方



デジタル認定証  
(オープンバッジ)  
とは

ICT活用教育分野における国際的な技術標準規格に準拠したデジタル証明であり、ブロックチェーン技術によって、実質的に偽造や改ざんが不可能のため、安心して利用できる。

なお、取得した資格や学習成果はSNSで共有することができる。また、ハイパーリンクを挿入したバッジ画像をメール署名や履歴書にも貼付可能。

デジタル認定証  
(オープンバッジ)  
のメリット

#### ・認定履歴の一元管理

自分専用の「オープンバッジウォレット」で一元管理することができ、紙の認定証と比べ、紛失のリスクは無し。

#### ・偽造・改ざん防止

ブロックチェーン技術を取り入れており、実質的に偽造・改ざんが不可能。信頼性の高い証明書として、安心して利用できる。

#### ・様々なシーンで幅広く活用

メール署名、履歴書、SNS等、様々なシーンで活用できる。

## (2) 「デジタル認定証明書 PDF」見本

※2022年4月以降にご受験いただいた方



### ■ 情報処理技術者能力認定試験について

サークルファイ情報処理能力認定委員会が主催する当試験は、システム設計やプログラミング開発に関わるプログラマやシステム・エンジニアなどの高度なIT技術者の育成を目的として1983年に創設されました。

以来30数年に渡り数多くのプログラマやシステム・エンジニアを輩出している国内有数の資格検定試験として、また、経済産業省が実施する「基本情報技術者試験」の午前試験免除制度に対応した民間資格として、広く社会で活用されています。

情報処理能力認定委員会

※紙の「認定証」をサークルファイで発行し、交付することも可能。(有料)

## B. 2022年3月以前に検定試験に合格された方

各委員会が主催する検定試験に合格した場合、受験者に対し「認定証」を発行済み(無料)。

「認定証」の見本は以下のとおり

なお、受験者に対しては「認定証」の他、試験結果帳票を発行済み。試験結果帳票には「認定基準」「合格基準」「分野別得点率(または正答率)」「合否結果」「出題範囲(不合格者のみ)」等を記載している。(一部の試験を除く)

## (1) 「認定証」見本

※2022年3月以前にご受験いただいた方



※試験により「認定証」の色やデザインは異なります。

## IV. 試験結果の活用促進

116

## (2) 「認定証明書」の発行

※2022年3月以前にご受験いただいた方

就職や単位認定等、企業や教育機関等に対し、必要に応じ合格実績を証明する「認定証明書」を発行している。

※試験・級名称、認定日、受験者氏名等の表記内容は認定証に順ずる。

※発行手数料は1通につき1,000円（税込）。

※2008年以前に認定を受けた試験の「認定証明書」の発行は終了。

## 2 結果活用に関する情報

検定試験について、教育機関及び企業等団体等における活用事例をホームページに記載  
(以下は一例)

### 団体における検定試験の活用事例

- 当社の講座において、プログラミング学習の到達目標としてジュニア・プログラミング検定を導入（パソコン教室）
- 生徒のモチベーション向上と教員による学習到達度の把握を目的としてPythonプログラミング能力認定試験を導入（中学・高等学校）
- 子どもたちを対象にアナウンサー体験やプレゼン体験を通じて発話教育を行う中で、コミュニケーション検定初級を大人へのコミュニケーション理解の指導にも活用（フリーアナウンサー）
- 著作権に関する知識は欠かすことのできない重要な要素であり、業界全体の著作権意識向上を目的としてビジネス著作権検定を導入（メディア業界）
- WordやExcelの試験内容が即実務に活かせる点を評価し、活用（職業訓練校）

また、受験者の受験後の活用事例については合格体験記を募集し、各検定試験のホームページに掲載

なお、当社では以下のケース（制度、証明等）について申請を受け付け、資格取得後の活用を促しております。当社が把握できるものとして「オフィスマスター」の申請、「認定インストラクター」の申請、「認定講師」の申請等がある。

オフィスマスター  
(Office Master)

- Office系技能認定試験（下記）に完全合格した方を「オフィスマスター」と認定し、認定証、認定カード、デジタル認定証（オープンバッジ）を発行  
※Excel®表計算処理技能認定試験1級、Word文書処理技能認定試験1級、Access®ビジネスデータベース技能認定試験1級、PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験上級
- コンピュータを利用して多角的にビジネス実務を処理できる能力をアピールすることはもちろん、アプリケーション操作技能を指導するインストラクターにとっても幅広い高度なスキルを証明することが可能（申請料は無料）

オフィストリプルクラウン (Office Triple Crown)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Office 系技能認定試験（下記）に完全合格した方を「オフィストリプルクラウン」と認定し、認定証、認定カード、デジタル認定証（オープンバッジ）を発行</li> </ul> <p>※Excel®表計算処理技能認定試験 1 級、Word 文書処理技能認定試験 1 級、PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験上級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを利用して多角的にビジネス実務を処理できる能力をアピールすることはもちろん、特にビジネスシーンで使用頻度が高い3つのアプリケーション操作技能を指導するインストラクターにとっても幅広い高度なスキル</li> </ul>
認定インストラクター	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記試験に合格しており、かつインストラクター経験 5 年以上、またはそれに準ずる指導・講師経験があり、出題範囲を熟知し効果的な指導ができる方を試験別に認定する制度</li> </ul> <p>※Excel®表計算処理技能認定試験、Word 文書処理技能認定試験、Access®ビジネスデータベース技能認定試験、PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験、Illustrator®クリエイター能力認定試験、Photoshop®クリエイター能力認定試験、Web クリエイター能力認定試験の各最上位級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の審査により認定。1 試験 1 名あたりの審査料 5,000 円（税込）</li> </ul>
コミュニケーション検定 認定講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション検定上級合格者、かつ当該試験に関わる指導経験 3 年以上、または教育機関や企業などでコミュニケーションに関わる指導経験を 5 年以上有する方を認定する制度</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の審査により認定</li> <li>1 名あたりの審査料 5,000 円（税込）</li> </ul>
ケア・コミュニケーション 検定 認定講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケア・コミュニケーション検定を 85%以上で合格し、かつ当該試験に関わる指導経験 3 年以上、または教育機関や企業などでケア・コミュニケーションに関わる指導経験を 5 年以上有する方を認定する制度</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の審査により認定</li> <li>1 名あたりの審査料 5,000 円（税込）</li> </ul>
実践日本語コミュニケーション 検定 認定インストラ クター	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践日本語コミュニケーション検定（PJC）A+レベル取得、かつ日本語を母語としない方を対象にコミュニケーションに関わる指導歴を 3 年以上有する方を認定する制度</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会の審査により認定</li> <li>1 名あたりの審査料 5,000 円（税込）</li> </ul>